

# 定格

▲注意 この頁は安全確保のために必ずお読みください

## チューナー部

FM受信周波数範囲 ..... 76MHz~108MHz  
AM受信周波数範囲 ..... 530kHz~1,600kHz

## アンプ部

実用最大出力 ..... 2W+2W

## CDプレーヤー部

読み取り方式 ..... 非接触光学式読み取り  
ワウ・フラッター (EIAJ) ..... 測定限界以下

## カセットデッキ部

トラック方式 ..... 4トラック2チャンネルステレオ  
録音方式 ..... 交流バイアス  
ヘッド 録音/再生用 ..... 1  
消去用 ..... 1

## 総合

電源  
交流 ..... AC100V, 50Hz/60Hz  
直流 ..... DC 9V (単一乾電池×6本)  
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) ..... 15W  
最大外形寸法 ..... (幅) 400×(高さ) 195×(奥行き) 254 mm  
本体質量 (重量) ..... 3.2 kg (乾電池含まず)  
付属品 電源コード ..... 1  
ケンウッドサービス網住所録 ..... 1

これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。  
● 極端に寒い(水が凍るような)場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

# KENWOOD

ポータブルマイクロCDシステム

## PMS-G1

### 取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございました。  
機器を正しく、安全にご使用いただくため、使用を開始する前に必ず、この取扱説明書の「安全編」をお読みにになり、十分にご理解ください。  
使い方の説明も、併せてよくお読みくださるよう、お願いいたします。  
また、取扱説明書は大切に保管して、必要になったときに繰り返しお読みください。  
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社ケンウッド  
KENWOOD CORPORATION

# KENWOOD

株式会社ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6  
商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。  
お客様相談室 (東京) 電話 (03)3477-5335 〒153-0042  
東京都目黒区青葉台 3-17-9  
(大阪) 電話 (06) 357-5335 〒534-0024  
大阪市都島区東野田町 1-20-5(大阪京橋第一生命ビル)



B60-4216-08 00 (J) (J) 9810

## 保証とアフターサービス (必ずお読みください)

### 保証書 (別途添付)

製品には保証書が(別途)添付されており、保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

### 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。  
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切な使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理をさせていただきます。修理に際しましては保証書をご提示ください。

### 保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

### 補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。  
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### 修理に関するご相談ならびにご不明な点には

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所へお問い合わせください。(お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。)

### 出張修理/持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状(できるだけ具体的に)
- ご住所(ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

### 修理料金の仕組み

(有料修理の場合は、次の料金をいただきます)

- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

### 修理をご依頼になるときは

「故障かな?と思ったら」に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所へお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

### お買い上げ店名

電話 ( ) -

# 安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため、この「安全上のご注意」をご使用前によくお読みください。

この「安全上のご注意」には、当社のポータブルオーディオ機器全般についての内容を記載しています。  
(説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります)

## 絵表示について

この取扱説明書(安全編)では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。

その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。



**警告**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



**注意**

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

## 絵表示の例



△記号は、注意(危険・警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

## 警告

### 交流100ボルト以外の電圧では使用しない



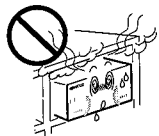
この機器は、交流100ボルト専用です。指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

### 放熱に注意



設置の際は、壁から10cm以上離してください。機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですのでふさがないようにご注意ください。

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭いところに押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

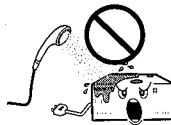


通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

### 風呂、シャワー室では使用しない



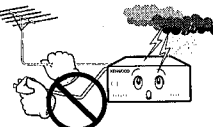
風呂、シャワー室など、湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。火災や感電の原因となります。



### 雷が鳴り始めたら



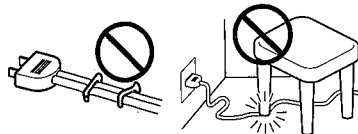
アンテナや電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。



### 電源コードの取扱い



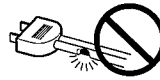
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステーブルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようご注意ください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかず重いものをのせてしまうことがあります。コードが傷つき、火災や感電の原因となります。



### 電源コードが傷ついたら



電源コードが傷ついたら(芯線の露出や断線など)修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



### 異常が起きた場合は



煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチをぎり、電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。煙や、臭異、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。



### 電源プラグは清潔に



電源プラグの刃および刃の付近に埃や金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



### 機器の内部に水や異物を入れない



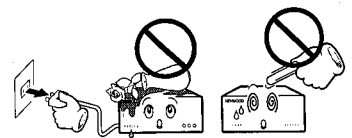
機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を機器の上に置かないでください。こぼれて中にはいると、火災・感電の原因となります。



機器の通風孔、開口部から内部に金属物や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

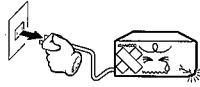


内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



落下した機器は使わない

落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。



ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ふた、カバーを開けたり、改造をしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災や感電の原因となります。点検、修理は販売店またはケンウッド営業所にご依頼ください。



電池は放置しない

電池は、幼児の手の届かないところに置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意ください。電池をあやまって飲み込むおそれがあります。万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



乾電池は充電しない

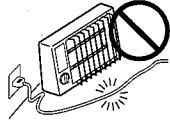
乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。



注意

電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。



湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。火災や感電の原因となります。



長期間使用しないときは

長期間、機器を使用しないときは、安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



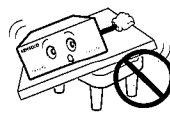
音量に気をつけて

はじめに、音量(ボリューム)を最小にしてください。突然大きな音がでて、聴力障害などの原因となることがあります。



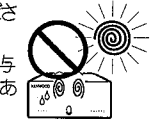
不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となります。



温度の高い場所には置かない

窓を閉めきった自動車の中や、直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

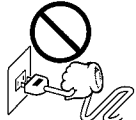


電源プラグの抜き差しは

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでゆるみがあるコンセントに接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したり埃が付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。



電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破壊する原因となることがあります。次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+とマイナス"-の向き)に注意し、表示通りに入れてください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。
- 電池や電池ケースは、金属製のボールペン、ネックレス、コイン、ヘアピン等と一緒に携帯、保管しないでください。
- 長期間使用しないときや、常時ACアダプターを使用する場合は、電池を取り出しておいてください。



レーザー光線はのぞかない

レーザー光線をのぞき込まないでください。レーザー光が目当たると視力障害を起こすことがあります。



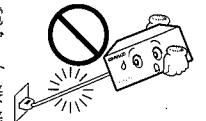
ひび割れたディスクは使わない

ひび割れ、変形、または接着剤などで修復したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。



移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は、指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。



指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスクの挿入口に、手を入れないよう、ご注意ください。指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

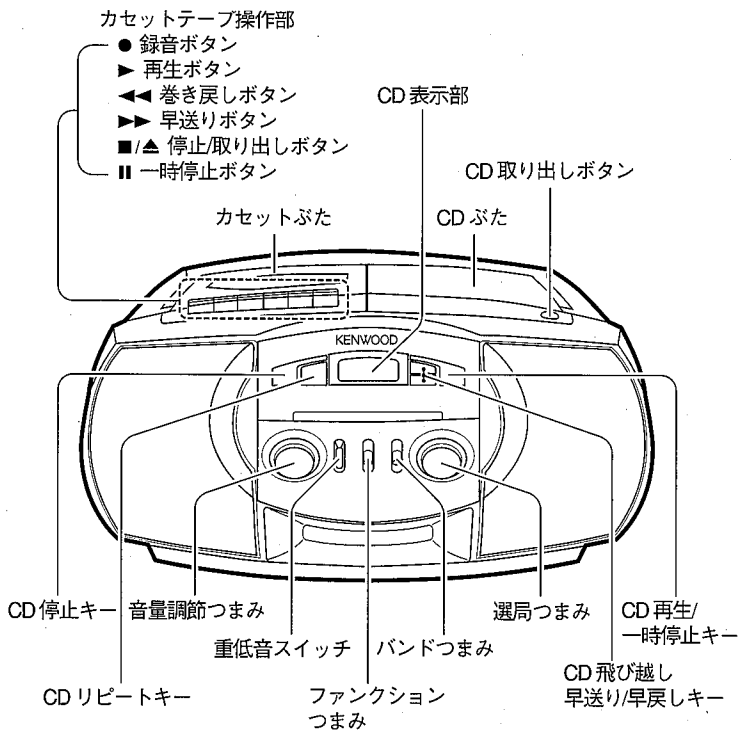


機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

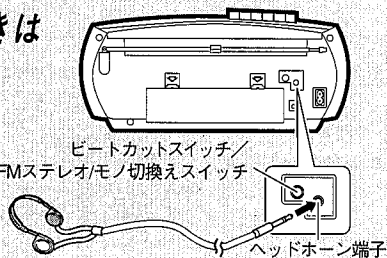


# 各部のなまえ



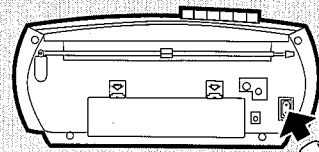
## ヘッドホーンで聴くときは

- ヘッドホーンを接続するとスピーカーの音は消えます。
- スピーカーで聴くときはヘッドホーンを外してください。



# 電源について

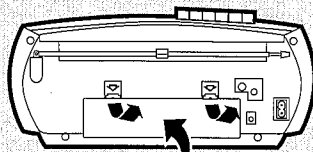
## 家庭用電源で使うとき



付属電源コード  
AC100V、50/60Hz  
電源コンセント

- 電源コードを接続しているときは、乾電池では働きません。

## 乾電池で使うとき



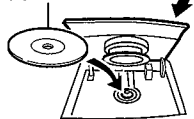
奥側

手前側

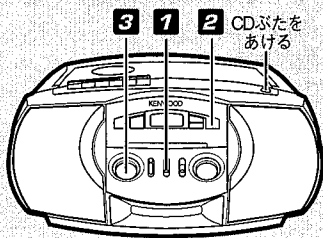
- 十、一の極性に注意して入れてください。
  - △ 乾電池6本のうち、1本を逆に接続してもほぼ正常に動作をしますが、乾電池が発熱するなど、大変危険です。絶対に逆に入れてください。
  - 市販の単1乾電池(LR20/R20)をご使用ください。
  - CDの再生をするときや、大切な録音をするときは、なるべく家庭用電源をお使いください。
- 電池の交換時期について
- 電池が消耗してくると表示が薄くなります。そのときは、一度に6本とも交換してください。

# CDを聴く

ディスクをトレイに入れます。  
ラベル面を上に入れる



- ふたを確実にしめてください。

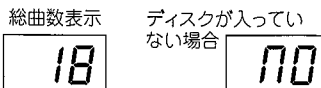


### ファンクション



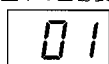
## 1 CDに切り換える

- ディスクの情報が読み込まれると、総曲数が表示されます。

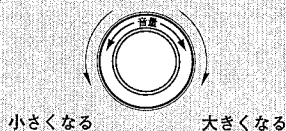


## 2 再生を始める

再生中の曲番表示



## 3 音量を調整する



## 再生を止める



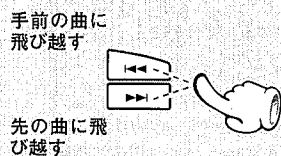
## 一時停止する

- 表示が点滅します。
- 押すたびに、一時停止と再生が切り換わります。



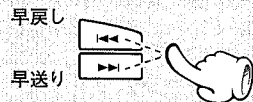
## 曲を飛び越す

- 押した方向に飛び越して、選んだ曲の最初から再生します。
- 再生中に◀◀キーを押すと、その曲の最初に戻ります。



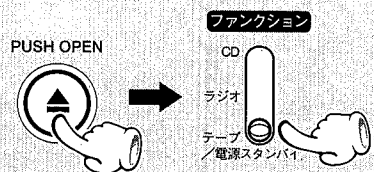
## 早送り、早戻しする

- 再生中にキーを押し続けます。
- 手を離れたところから再生を始めます。



## 再生を終了するとき

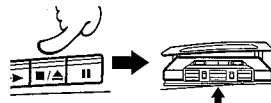
- 再生を止め、取り出しボタンを押して、ディスクを取り出す。
- テープ/電源スタンバイにする。



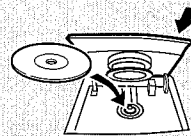
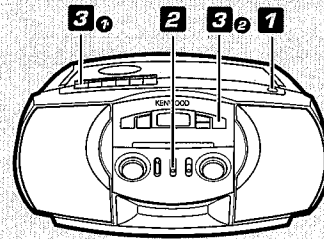
# 録音をする

## CDを録音する

テープを入れる。



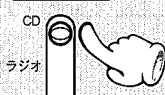
- カセットの厚いほうを手前にして入れます。
- ふたを確実にしめてください。



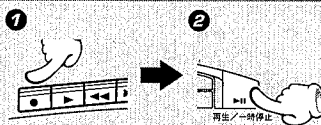
### 1 ディスクを入れる

- ラベル面を上にして入れ、ふたを確実にしめます。

ファンクション



### 2 CDに切り換える



### 3 録音を開始する

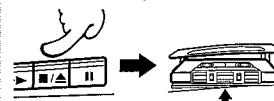
- 録音レベルは自動的に調整されます。

### 録音を停止するときは

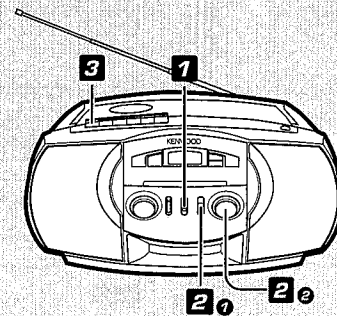
- CD部の ■キーを押して、CDを停止させ、テープ部の ■/▲ボタンを押して、テープを止めます。
- 電源を切るときは、ファンクションつまみをテープ/電源スタンバイにします。

## 放送を録音する

テープを入れる。



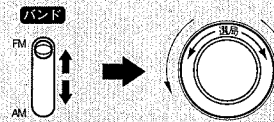
- カセットの厚いほうを手前にして入れます。
- ふたを確実にしめてください。



ファンクション

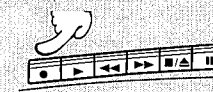


### 1 ラジオに切り換える



### 2 放送を選ぶ

- FMまたはAMを選びます。



### 3 録音を開始する

- 録音レベルは自動的に調整されます。

### 録音を停止するときは

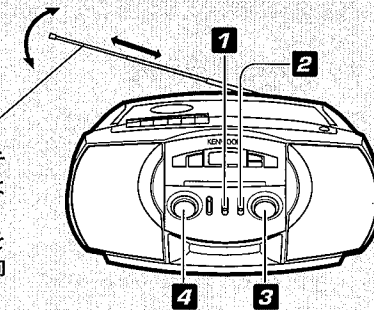
- テープ部の ■/▲ボタンを押して、テープを止めます。
- 電源を切るときは、ファンクションつまみをテープ/電源スタンバイにします。

### AM放送を録音するとき

AM放送を録音するときに「ピーツ」という発振音が録音されるときは、背面の「ビートカットスイッチ/FMステレオ/モノ切換えスイッチ」を切り換えて、発振音が小さくなるほうを選んでください。

## 放送を聴く

FM放送の受信中は背面のアンテナを動かして、一番受信状態のよい方向に向けます。  
AM放送を受信中は本体の向きをかえて、一番受信状態のよい方向に向けます。



ファンクション



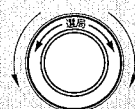
### 1 ラジオに切り換える

バンド



### 2 放送バンドを選ぶ

- FMまたはAMを選びます。



### 3 放送周波数を選ぶ

- FMステレオ受信時に雑音が多い場合は背面の「ビートカットスイッチ/FMステレオ/モノ切換えスイッチ」を ■ステレオ位置から ■モノラル位置にしてください。

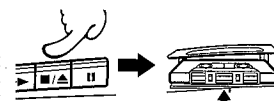


### 4 音量を調整する

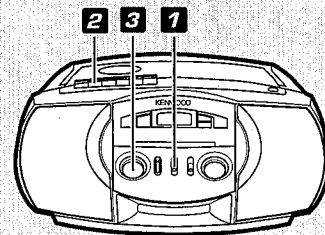
- 電源を切るときは、ファンクションつまみをテープ/電源スタンバイにします。

## テープを聴く

テープを入れる。



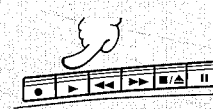
- カセットの厚いほうを手前にして入れます。
- ふたを確実にしめてください。



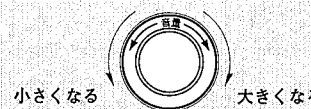
ファンクション



### 1 テープに切り換える



### 2 ▶ ボタンを押す



### 3 音量を調整する

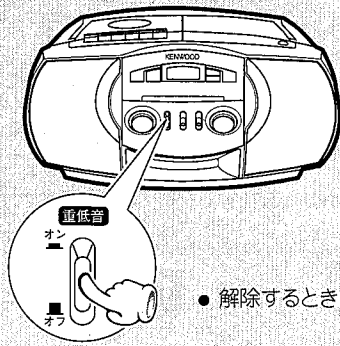
### 再生を止めるときは



一時停止する	ボタンを押す
一時停止の解除	再度    ボタンを押す
巻き戻し	◀◀ ボタンを押す
早送り	▶▶ ボタンを押す

# いろいろな使いかた

## 低音を補正して聴くには



● 解除するときにはもう一度押します。

## CDを繰り返し聴く

CDの1曲だけを、または全曲を繰り返し聴くことができます。

「リピート」キーを押す度に切り換わります。

- ① 1曲繰り返し ("REP."点滅)
- ② 全曲繰り返し ("REP."点灯)
- ③ 繰り返し再生解除 ("REP."消灯)



1曲繰り返し時



全曲繰り返し時



繰り返し再生解除

# 故障かな?と思ったら...

調子が悪いと故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に症状に合わせて一度チェックしてみてください。

症状	原因	処置
音が出ない。	● 音量を最小にしている。 ● ヘッドホンプラグが差込まれていない。 ● 電源コードが抜けている。	● 適当な音量にする。 ● ヘッドホンプラグを抜く。 ● 電源コードを確実に差し込む。
放送に雑音が入る。	● アンテナの向きが合っていない。 ● テレビの近くで使っている。	● 雑音の少ない方向にアンテナや、本体の向きを変える。 ● テレビから離す。
ディスクを入れても再生できない。	● ディスクが裏返しに入っている。 ● ディスクがずれている。 ● ディスクが入っていない。 ● ディスクに傷が付いている。	● ラベル面を上にして、正しく入れる。 ● ディスクを正しく入れ直す。 ● ディスクを入れる。 ● ディスクを取り替える。
音とびがする。	● ディスクがひどく汚れている。 ● 本機に震動が加わっている。	● ディスクを清掃する。 ● 震動のない場所に設置する。
テープの音がかすれたり高音が出なくなる。	● ヘッドが汚れている。 ● テープがのびたり、ワカメ状になっている。	● ヘッドを清掃する。 ● テープを交換する。
テープの音がふるえる。	● キャプスタン、ピンチローラーが汚れている。 ● テープに巻き取りムラがある。	● キャプスタン、ピンチローラーを清掃する。 ● テープの端から端まで通して早送り、巻戻し、または再生をして巻き直す。
再生ボタンを押しても音がでない。	● 未録音テープを再生している。 ● テープが入っていない。	● 録音済みテープと交換する。 ● 録音済みテープを入れる。
録音ボタンを押しても録音できない。	● カセットテープのツメが折れている。	● ツメの折れていないテープを使う、または穴をふさぐ。

# メンテナンス

## ヘッドのお手入れ

いつまでも最良の状態でご使用になるには、テープ再生時間約10時間ごとに、ヘッド(録音/再生/消去)、キャプスタン、ピンチローラーのクリーニングを心がけてください。クリーニングは、次の手順で行ってください。

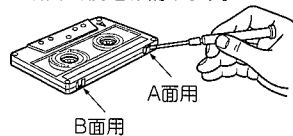
1. カセットホルダーを開けます。
2. ヘッド(録音/再生/消去)、およびキャプスタン、ピンチローラーを、市販のクリーニング液を含ませた綿棒で注意深くクリーニングします。

ヘッドのテープガイドなど、精密に調整された部分があります。クリーニングの際は、引っかけたり、強い衝撃などを加えないように注意してください。

## カセットテープについてのご注意

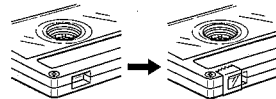
### 誤消去防止装置

大切な録音のあとには、カセットのツメを折ってください。誤消去・誤録音が防げます。



### 再び録音するには

ツメを折った所だけにテープをはる。

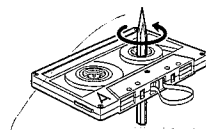


## カセットテープの保管について

直射日光下や暖房器などのそばに放置しないでください。また、磁石や磁気は近づけないでください。

## テープがたるんでいる場合

このような場合には、リール軸に鉛筆などを差し込んで、テープのたるみをとってから装着してください。



## 110分以上のテープやエンドレステープについて

110分以上のテープや、エンドレステープはピンチローラーに巻きついたり、切れたり、トラブルが発生しやすいので、ご使用はお避けください。

## ディスク使用上のご注意

### 使用できるディスクについて

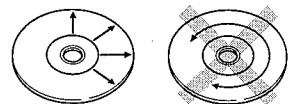
本機は マークのついたディスクを再生できます。それ以外のディスクは再生できません。8cmシングル盤はそのまま再生できます。市販のシングルCDアダプターは使用しないでください。

### 取り扱い

再生面に触れないように持ってください。再生面はもちろん、ラベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

### お手入れ

ディスクに指紋や汚れがついたときは、柔らかい布などで、放射状に軽く拭き取ってください。



### 保存

長い間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。

### 簡単なお手入れ

#### 本体のお手入れ

本体の汚れは柔らかい布で、からぶきしてください。汚れがひどいときは、濡らせた布で拭いてください。ベンジン・シンナーなどは機器を傷めますので使用しないでください。

#### 端子のお手入れ

ヘッドホンのプラグは柔らかい布でからぶきし、常にきれいに保つようしてください。汚れていると、雑音や誤動作の原因になります。

## 結露について

暖房をつけた直後や、湿気(または湯気)の多い部屋などでは、本機のレンズに霧がついて正しく働かないことがあります。このようなときは、約1時間放置してから再生してください。

## ステレオ音のエチケツ

- 楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、となり近所への配慮を十分にいたしましょう。
- 特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに関を配り、快い生活環境を守りましょう。